

第**203**期

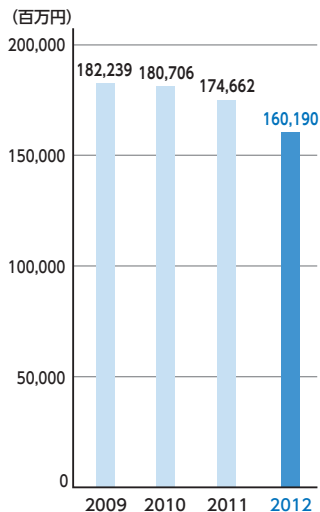
# 株 主 通 信

平成24年4月1日～平成25年3月31日

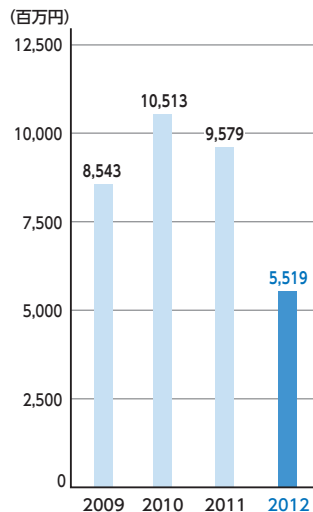


# 業績の推移

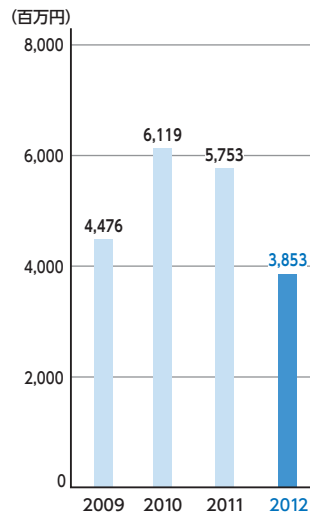
## ■ 連結売上高



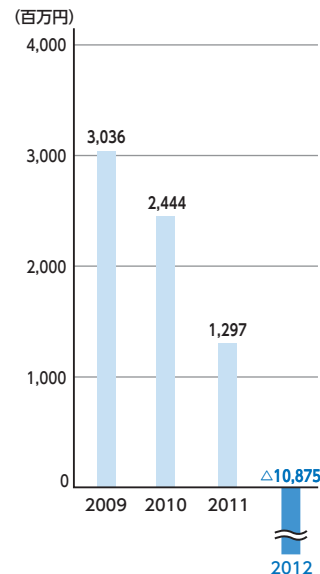
## ■ 連結営業利益



## ■ 連結経常利益

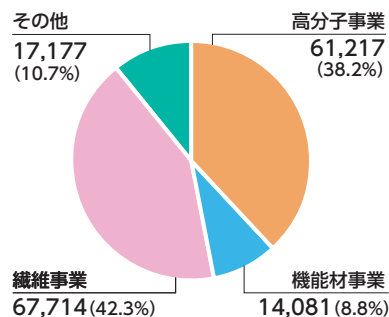


## ■ 連結当期純利益

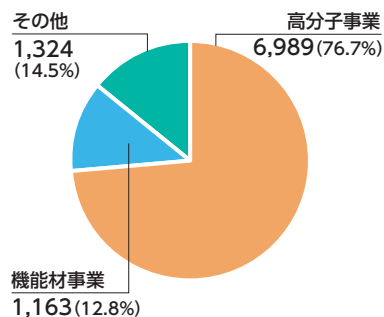


## ■ 事業セグメント別 連結売上高・連結営業利益 (単位:百万円)

### 連結売上高 (構成比)



### 連結営業利益 (構成比)



### 連結売上高

合計 160,190百万円

### 連結営業利益

合計 5,519百万円

※事業セグメント別の連結営業利益は部門間消去前の数値で表示しております(合計9,107百万円)。

※「繊維事業」の連結営業利益は損失となっていますので、構成比で表示していません。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

# 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろよりご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、第203期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の業績につきまして、ご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、復興需要、政権交代後の円高是正の進行や株価回復といった先行きへの期待が高まっていますが、欧州債務問題の長期化、新興国の景気減速及び日中関係悪化などから輸出が低迷し、個人消費や雇用情勢も力強さに欠けるなど、実態としては依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、当社グループは、本年度からスタートした中期経営3カ年計画『Change & Challenge' 14』に掲げる施策に基づき、高分子事業を中心とする機能資材メーカーとしての基盤強化や低採算事業の収益改善施策の実行に努めてまいりました。しかしながら、販売数量の減少に加えて年明けからの急激な円安ドル高への為替変動に伴う原燃料価格高騰もあり、収益は大きく減少しました。これらにより、当期の連結売上高は160,190百万円(前期比8.3%減)、連結営業利益は5,519百万円(同42.4%減)、連結経常利益は3,853百万円(同33.0%減)となり、減損損失や事業構造改善費用などの特別損失を計上し、繰延税金資産の取崩しにより税金費用が増加したため、連結当期純損失は10,875百万円(前期は1,297百万円の純利益)となりました。

なお、当期につきましては、誠に申し訳ありませんが無配とさせていただきますので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後につきましては、当社グループは、中期経営3カ年計画『Change & Challenge' 14』の1年目である当期の厳しい業績結果を踏まえて、改めて、高分子事業などの成長戦略の推進、固定費削減を含む徹底したコストダウンの実施、低採算事業の収益改善施策の実行、原燃料価格高騰に対応する価格改定の実施を推進します。これらの施策を着実に遂行することにより、収益基盤を底上げし将来の確固たる事業基盤を確立します。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月



代表取締役社長 安江 健治

### ■状況

フィルム事業では、包装分野は、震災後の旺盛な需要から一転し在庫調整局面となり、その後緩やかに回復してきたものの本格的な需要増加には至らず、収益は減少しました。工業分野は、ポリエステルフィルムの需要が全体的に低迷する中、情報端末機器用途の需要が回復していましたが期後半に失速し、収益は減少しました。この結果、事業全体で減収減益となりました。

樹脂事業では、ナイロン樹脂は、自動車用途がエコカー補助金制度終了後に一時落ち込みましたが、全体的には堅調に推移しました。ポリエステル樹脂は、電気・電子機器用途が低調でしたが、環境配慮型の水性エマルジョンの新規用途への展開が進みました。また、当社独自のポリアリレート樹脂「Uポリマー」は、情報端末機器用途などで新規展開は進みましたが、電気・電子機器用途、事務機器用途が低調に推移しました。この結果、事業全体で減収減益となりました。

不織布事業では、ポリエステルスパンボンドは、カーペット用途、建築・土木用途が伸長しましたが、衛生材料、農業、一般資材の各用途が低調に推移し、輸出も数量が伸び悩み、収益は減少しました。コットンスパンレースは、前期まで好調に伸長を続けたウェットシート用途で在庫調整により販売数量が減少し、他の用途の伸長でカバーしましたが、収益は減少しました。この結果、事業全体で減収減益となりました。

バイオマスプラスチック「テラマック」は、フィルム、樹脂、不織布、繊維の各事業で積極的に展開しています。自動車用途などの需要は回復基調で推移しましたが、当期は市況低迷の影響を受けました。

以上の結果、高分子事業の売上高は61,217百万円(前期比9.0%減)、営業利益は6,989百万円(同27.3%減)となりました。



直線カット性で開封性に優れる  
ナイロンフィルム「エンブレムNC」



「Uポリマー」使用  
自動車ターンランプ アンバーキャップ



スパンボンド農業用シート  
「ラブシート」



バイオマスプラスチック「テラマック」  
幼児用食器「iiwan」

### ■課題

フィルム事業は、包装分野では、原料価格の動向に応じた価格改定を行います。また、本年夏にインドネシア子会社のエンブレムアジアでナイロンフィルム大型新鋭機の稼働を開始するほか、ユニチカエンブレムチェーンとの連携も取り、成長が続くアジア市場におけるシェア拡大、中国市場での差別化戦略の推進、欧米市場での拡販を図ります。工業分野では、新規開発品の販売強化、品質向上による新規用途開拓を推進します。樹脂事業は、環境配慮型の高耐熱ポリアミド樹脂「ゼコット」の自動車用途、電気・電子機器用途などへの需要開拓を一層強化します。ポリエステル樹脂等では、新たに成果を上げた環境配慮型の水性エマルジョン「アローベース」の新規用途開拓による拡販を図るとともに、高耐熱性と溶剤可溶性を兼ね備えた新規ポリアリレート樹脂「ユニファイナー」の電気・電子機器用途などへの展開を推進し、収益力の一層の向上を図ります。不織布事業は、二成分複合型不織布を用いた除染廃棄物仮置場に使用するガス透過（通気）性防水シート「エルベスキャッピングシート」といった震災復興用途を強化し、コットンスパンレースについては、ウェットシート用途の拡販や海外展開を強化します。バイオマスプラスチック「テラマック」は、耐熱性などの改質技術や加工技術、多様な素材供給力を強みに、国内・海外の各分野での展開を強化します。

### ■高分子事業 売上高・営業利益

売上高

合計 61,217百万円

営業利益

合計 6,989百万円



## ■状況

ガラス繊維事業では、産業資材分野のビル・土木改修用途は堅調に推移しましたが、その他の用途では販売が伸び悩むなど低調に推移しました。電子材料分野のICクロスは、市場での競争が激化し苦戦していますが、情報端末機器用途の販売構成を高めたため採算はやや改善しました。ガラスビーズ事業では、工業用途は、電子部品などの市況悪化により高採算製品を中心に販売数量が減少し、ロードマーキング用途や標識、安全服などの反射材用途も低調に推移しました。また、活性炭繊維については、浄水器用途は、引き続き堅調に推移しましたが、廃液処理用途やVOC除去シート用途などの需要回復はやや遅れました。

以上の結果、機能材事業の売上高は14,081百万円(前期比6.3%減)、営業利益は1,163百万円(同32.8%減)となりました。



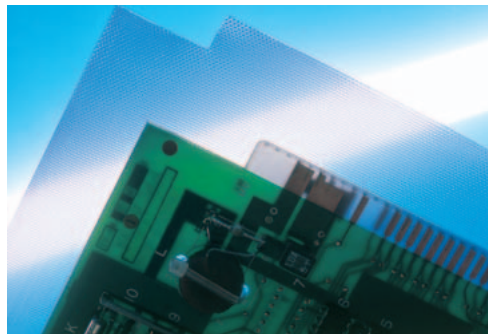
ガラスビーズ「ユニビーズ」  
使用道路(白線)



高性能VOC除去シート



活性炭繊維フィルター  
「デキシエフィルター」



プリント配線基板用ICクロス

## ■課題

機能材事業では、ガラス繊維事業は、産業資材分野の不燃天井材など建材の高機能品をはじめ、顧客のニーズに応えた各種製品の拡販を図ります。電子材料分野のICクロスは、情報端末機器用途の販売を強化するとともに、コスト削減の徹底などにより収益の改善を目指します。ガラスビーズ事業は、工業用途を中心に差別化品によるシェア拡大を図るとともに新規分野の開拓を進めます。活性炭繊維は、廃液処理用途などでアジア市場を中心とする海外展開を強化し、浄水器用途では水栓内蔵型用途の拡販や高機能カートリッジフィルターの新商品展開を図ります。

## ■機能材事業 売上高・営業利益

### 売上高

合計 14,081百万円

### 営業利益

合計 1,163百万円

### ■状況

産業繊維事業では、ポリエステル高強力糸は、主力の建築・土木分野で市況回復が見られず低調に推移し、ポリエステル短繊維は、年明けからの円安ドル高への為替変動による採算改善はありましたが、国内での価格競争が更に激化し収益は悪化しました。また、ビニロン繊維は、アスベスト代替のセメント補強用途で欧州市況の改善が見えない中、新興国市場の新規開拓による拡販に注力しましたが、価格競争の激化や販売構成の変化により収益は悪化しました。

衣料繊維事業では、ユニフォーム分野は、白衣・サービスユニフォームなどが堅調でした。スポーツ分野では、多様化するニーズに合わせた高付加価値品の販売が堅調に推移し、レディス分野では、事業の選択と集中が奏功し収益は改善しました。一方、一部の子会社では、市況の低迷を受け収益は減少しました。

以上の結果、繊維事業の売上高は67,714百万円(前期比11.7%減)、営業損失は370百万円(前期は744百万円の利益)となりました。



カーシート用途



建設資材用途



土木用途



衣料用途

### ■課題

繊維事業では、産業繊維事業は、調達、生産、販売及び管理の全ての段階において抜本的なコスト削減施策を実施し、収益改善の基盤を構築します。ポリエステル高強力糸では、バリューチェーンの強化を図り、ポリエステル短繊維では、海外への積極展開を含めたショートカット綿の拡販、差別化バインダー綿などの高機能性素材の拡販を加速させます。また、セメント補強用ビニロン繊維では、これまで開拓した新興国の新規顧客に対する高付加価値品の拡販により採算改善を図ります。衣料繊維事業は、ユニチカトレーディング株式会社を中心として、インドネシア、中国、ベトナムなどの拠点を積極的に活用したグローバル展開の強化、「安全」「安心」「環境」に対応する分野の充実を図り、更なる成長を目指します。

### ■繊維事業 売上高・営業損失

売上高

合計 67,714百万円

営業損失

合計 370百万円

## ■状況

生活健康事業では、健康食品のハナピラタケ関連商品が底堅い需要に支えられましたが、その他機能性食品原料などでは、堅調なラクトビオン酸やアラビノースを除き国内販売・輸出ともに低調に推移しました。メディカル事業では、医用材料分野は、排液系カテーテルの伸長や主力の循環系カテーテルの新製品上市などにより売上げが増加しました。生化学分野は、診断薬は堅調でしたが、酵素は国内市況の低迷を受け苦戦しました。

不動産関連事業では、マンション販売は、期後半に竣工した物件の販売が堅調に推移し収益は伸長しました。

以上の結果、その他の売上高は17,177百万円(前期比9.8%増)となり、営業利益は1,324百万円(同76.3%増)となりました。



健康食品



不動産関連事業



臨床検査薬



医用材料

## ■課題

生活健康事業は、「白幻鳳凰」などの健康食品の新規顧客開拓及び新規アイテム創出を引き続き推進するとともに、好調な滑り出しをした機能性食品原料であるラクトビオン酸や主力のセラミドの拡販を図ります。メディカル事業は、主力の循環系を中心にラインアップを強化した抗血栓性カテーテルを拡販し、創傷被覆保護材「ベスキチン」の海外展開、酵素の新規用途・新規顧客の開拓を図ります。

## ■その他 売上高・営業利益

### 売上高

合計 17,177百万円

### 営業利益

合計 1,324百万円

## その他の課題

海外展開については、前述のナイロンフィルム大型新鋭機の稼働によりナイロンフィルムのグローバルトップシェアの地位を更に固めるとともに、その他の高分子、機能材、繊維の各セグメントの事業についても、中国やASEAN地域の海外拠点を活用し、成長が続くアジア市場、欧米市場への拡販に取り組んでまいります。

研究開発については、中・長期的な技術ビジョンを明確にし、当社グループが保有する高分子設計・制御技術及び機能付与技術を駆使し、ライフサイエンス、環境、エネルギーの各分野で、バイオマスプラスチック、高機能樹脂、高耐熱フィルムなど成長を牽引する開発を行ってまいります。

本格的な震災復興に向けユニチカグループによる支援を行うため、組織横断的に「復興地域再生支援チーム」を立ち上げ、事業活動を行っています。前述の「エルベスキッピングシート」の不織布をはじめ、産業資材、繊維、環境調査・計測などの各分野でこれまで蓄積してきた技術や実績を活かし、瓦礫や廃棄物処理、除染に役立つ製品、放射線計測などの事業展開に引き続き取り組んでまいります。

また、これまで以上に在庫削減などを含めた運転資金の効率化を徹底し、有利子負債の削減に努めてまいります。

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成25年3月31日)	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	科 目	当連結会計年度 (平成25年3月31日)	前連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>(資産の部)</b>			<b>(負債の部)</b>		
<b>流動資産</b>			<b>流動負債</b>		
現金及び預金	19,668	15,361	支払手形及び買掛金	22,067	25,191
受取手形及び売掛金	36,339	39,884	短期借入金	68,433	69,993
たな卸資産	39,776	47,797	1年内返済予定の長期借入金	32,925	34,613
繰延税金資産	1,330	1,775	リース債務	301	369
その他	3,329	3,824	未払法人税等	756	515
貸倒引当金	△170	△217	賞与引当金	1,567	1,848
流動資産合計	100,274	108,425	工事損失引当金	-	23
<b>固定資産</b>			事業構造改善引当金	1,087	142
<b>有形固定資産</b>			その他	11,423	11,324
建物及び構築物(純額)	18,389	21,401	流動負債合計	138,562	144,022
機械装置及び運搬具(純額)	20,857	21,944	<b>固定負債</b>		
工具、器具及び備品(純額)	1,235	1,218	長期借入金	65,162	68,601
土地	103,163	104,766	リース債務	292	414
リース資産(純額)	586	748	繰延税金負債	17,336	11,429
建設仮勘定	4,196	3,066	再評価に係る繰延税金負債	2,341	2,204
有形固定資産合計	148,428	153,145	退職給付引当金	7,752	7,189
<b>無形固定資産</b>			役員退職慰労引当金	53	58
のれん	14	21	その他	2,234	2,356
その他	800	751	固定負債合計	95,173	92,255
無形固定資産合計	815	773	<b>負債合計</b>	<b>233,736</b>	<b>236,278</b>
<b>投資その他の資産</b>			<b>(純資産の部)</b>		
投資有価証券	3,177	3,608	<b>株主資本</b>		
出資金	23	23	資本金	26,298	26,298
長期貸付金	201	218	資本剰余金	4,385	4,161
繰延税金資産	396	509	利益剰余金	△11,976	△646
その他	2,062	2,297	自己株式	△44	△55
貸倒引当金	△325	△515	株主資本合計	18,663	29,757
投資その他の資産合計	5,535	6,141	<b>その他の包括利益累計額</b>		
固定資産合計	154,779	160,060	その他有価証券評価差額金	114	26
<b>資産合計</b>	<b>255,054</b>	<b>268,486</b>	繰延ヘッジ損益	6	4
			土地再評価差額金	2,979	2,764
			為替換算調整勘定	△3,954	△4,041
			その他の包括利益累計額合計	△854	△1,245
			<b>少数株主持分</b>	<b>3,508</b>	<b>3,696</b>
			純資産合計	21,317	32,207
			<b>負債純資産合計</b>	<b>255,054</b>	<b>268,486</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。



## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上	160,190	174,662
売上原価	130,827	140,843
売上総利益	29,362	33,819
販売費及び一般管理費	23,843	24,239
営業利益	5,519	9,579
営業外収益		
受取利息	97	154
受取配当金	92	104
受取賃料	67	70
為替差益	1,107	-
その他	917	1,066
営業外収益合計	2,281	1,395
営業外費用		
支払利息	2,997	3,265
支持分法による投資損失	38	224
その他	910	1,731
営業外費用合計	3,947	5,220
経常利益	3,853	5,753
特別利益		
固定資産売却益	817	164
負債のれん発生益	48	-
特別利益合計	866	164
特別損失		
固定資産処分損失	515	531
減損損失	4,782	-
事業構造改善費用	2,405	2,792
退職給付制度終了	-	299
その他	711	434
特別損失合計	8,415	4,057
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△3,694	1,861
法人税、住民税及び事業税	857	533
法人税等調整額	6,306	12
法人税等合計	7,163	545
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失(△)	△10,858	1,315
少数株主利益	17	18
当期純利益又は当期純損失(△)	△10,875	1,297

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△3,694	1,861
減価償却費	5,675	5,899
減損損失	4,782	-
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△237	△102
退職給付引当金の増減額(△は減少)	550	1,551
事業構造改善引当金の増減額(△は減少)	945	△482
その他の引当金の増減額(△は減少)	△311	700
支払利息	2,997	3,265
固定資産処分損益(△は益)	515	531
固定資産売却損益(△は益)	△817	△164
売上債権の増減額(△は増加)	3,608	1,870
たな卸資産の増減額(△は増加)	8,201	△1,339
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,270	303
その他	501	345
小計	19,446	14,239
利息及び配当金の受取額	188	272
利息の支払額	△2,957	△3,310
法人税等の支払額	△637	△402
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,040	10,798
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△10	175
投資有価証券の取得による支出	△22	△42
投資有価証券の売却による収入	401	86
有形固定資産の取得による支出	△5,801	△7,713
有形固定資産の売却による収入	1,198	211
その他	△169	△165
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,404	△7,449
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,887	△3,558
長期借入れによる収入	29,504	31,340
長期借入金の返済による支出	△34,665	△36,748
転換社債型新株予約権付社債の発行による収入	-	5,000
その他	△384	△425
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,432	△4,393
現金及び現金同等物に係る換算差額	92	△205
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,296	△1,250
現金及び現金同等物の期首残高	15,339	16,589
現金及び現金同等物の期末残高	19,636	15,339

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結株主資本等変動計算書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					その他包括利益累計額					少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
平成24年4月1日残高	26,298	4,161	△646	△55	29,757	26	4	2,764	△4,041	△1,245	3,696	32,207
連結会計年度中の変動額												
新株発行		223			223							223
当期純利益			△10,875		△10,875							△10,875
土地再評価差額金取崩額			△453		△453			453				-
自己株式の取得				△27	△27							△27
自己株式の処分				△0	39							39
連結子会社株式の取得による増減 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						87	2	△238	86	△61	△284	△284
連結会計年度中の変動額合計		223	△11,329	11	△11,093	87	2	215	86	391	△188	△10,890
平成25年3月31日残高	26,298	4,385	△11,976	△44	18,663	114	6	2,979	△3,954	△854	3,508	21,317

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

除染廃棄物仮置場に使用するガス透過(通気)性防水シート

## 「エルベス キャッピングシート」

ユニチカは、「ユニチカ復興地域再生支援チーム」のプロジェクトの一つとして、ジオシンセティックス技術研究会(メンバー:地方行政独立法人大阪府立産業技術総合研究所 他)と共同で、ガス透過(通気)性防水シート「エルベス キャッピングシート」を開発しました。「エルベス キャッピングシート」は、優れた防水性能とガス透過(通気)性能を両立させ、防水シートとしては初めて公益社団法人日本材料学会の技術評価証明を取得するなど、これまでにない防水シートです。東日本大震災被災地域の除染廃棄物仮置場では、廃棄物の飛散防止や雨水の流入防止を目的として防水シートが

使用されていますが、従来のシートは、廃棄物中に含まれる有機物が腐敗して発生するガスの透過(通気)率が低く、ガス

が滞留し、火災の要因になる可能性があるため、ガス抜き管などの設置などが必要であったため、ガス透過性を有したシートの開発が望まれていました。すでに福島県南相馬市などの被災地域で採用されております。



【お問合せ先】 スパンボンド営業部 大阪資材グループ TEL:06-6281-5360  
ユニチカトレーディング株式会社 営業推進室 TEL:06-6203-7410  
<http://www.unitika.co.jp/news/high-polymer/130410-000508.html>

ユニチカハナビラタケ健康食品

## 「白幻鳳凰」発売10周年記念お試しキャンペーン

ユニチカは、ユニチカハナビラタケを使用した健康食品「白幻鳳凰(びやくげんほうおう)」の通信販売を2003年4月から開始し、おかげさまで10周年を迎えることができました。ユニチカハナビラタケは、健康維持に役立つβ-グルカンが豊富に含まれたきのこで、発売以来注目を集めてきました。このたび、長年のご愛顧に感謝し、「ユニチカハナビラタケ「白幻鳳凰」発売10周年記念お試しキャンペーン」を展開しています。「白幻鳳凰」3タイプ(顆粒・カプセル・エキス)で約1週間分を同梱したお試しセットを限定5,000セットご用意しました。初めての方のみ1家族1セット限りにつき、500円(税込)で販売していますので、この機会にお試しください。

【お問合せ先】 ユニチカ通信販売 お客様窓口  
フリーダイヤル:0120-541-870 受付時間/9:00~21:00(土日祝も受付)  
<http://www.unitika.co.jp/news/life/130312-000504.html>



## ユニチカグループの紹介

### タイユニチカспанボンド (タスコ)

タイユニチカспанボンド(タスコ)は、ユニチカグループ不織布事業の東南アジアでの拠点として、1997年にタイ北部のパトゥムタニ県に設立されました。

タスコは、ユニチカ独自技術によるポリエステルспанボンド不織布を製造し、成長が著しいアジア市場のみならず、アメリカやヨーロッパなど多くの地域に販売しています。ユニチカグループのポリエステルспанボンド不織布は、自動車・フロア用カーペット基布を始め、土木・建築資材用途、生活資材用途など、あらゆる分野で用いられています。



THAI UNITIKA SPUNBOND CO.,LTD(TUSCO)  
1/1, Phahonyothin Rd., Klong Nueng, Klong Luang,  
Pathumthani 12120, Thailand.  
Tel. +662-516-2885-6, Fax. +662-516-2892  
URL : <http://www.tusco.co.th/>

## 株式の状況 (平成25年3月31日現在)

- 発行済株式の総数 577,523,433株
- 株主数 58,530名
- 単元株主数 50,279名
- 大株主

株主名	株式数	持株比率
那須功	27,000千株	4.68%
株式会社三菱東京UFJ銀行	23,345	4.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	18,382	3.18
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,114	2.79
ユニチカ従業員持株会	12,124	2.10
大同生命保険株式会社	8,000	1.38
日本生命保険相互会社	7,726	1.33
東京海上日動火災保険株式会社	6,498	1.12
ユニチカ共栄会	5,840	1.01
日本興亜損害保険株式会社	5,362	0.92

(注) 持株比率は自己株式(766,802株)を控除して計算しております。

## 会社の概要 (平成25年3月31日現在)

社名 ユニチカ株式会社  
 創立 明治22年6月19日  
 資本金 26,298,450,000円  
 本店 兵庫県尼崎市東本町一丁目50番地  
 大阪本社 〒541-8566  
 大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号  
 電話06-6281-5722  
 (人事総務部法務グループ)  
 東京本社 〒103-8321  
 東京都中央区日本橋室町三丁目4番4号  
 電話03-3246-7540 (東京総務部)  
 研究所 中央研究所(宇治)  
 事業所 宇治事業所・岡崎事業所・貝塚事業所  
 垂井事業所・豊橋事業所・常盤事業所  
 宮川事業所・坂越事業所  
 営業所 名古屋・京都 他  
 従業員数 連結 4,534名 単体 1,250名

## 役員 (平成25年7月1日現在)

代表取締役社長	安江 健治
代表取締役専務	山口 裕正
取締役常務執行役員	注連 浩行
取締役常務執行役員	松永 卓郎
取締役常務執行役員	上埜 修司
取締役常務執行役員	阪田 誠造
監査役(常勤)	菅原 健一
監査役	吉田 俊朗
監査役	半林 亨*
監査役	軒原 正夫*

\*は社外監査役

## 執行役員 (平成25年7月1日現在)

上席執行役員	田頭 弘美
上席執行役員	永田 直彦
上席執行役員	榎田 晃
上席執行役員	長谷川 弘
執行役員	小畑 政信
執行役員	細田 雅弘
執行役員	森川 光洋
執行役員	竹歳 寛和
執行役員	富岡 弘之

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日  
剰余金の配当 期末 3月31日  
中間 9月30日

公告方法 電子公告（当社ホームページに掲載）  
<http://www.unitika.co.jp/ir/notice/index.html>  
ただし、事故その他やむを得ない事由によつて電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502  
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
電話 0120-094-777（通話料無料）

### （ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

UD FONT

環境に配慮した植物油  
インキを使用しています

